



新編大筑波集
十九

利5
2784



利 5 物
2784

是法住法住世^間相常位
我见自心。致如月傍
之界唯心。心外至别法

新續大統波集卷第九

雜詠諧連弁中

小卷
玉日於文庫

伊吹おろりりり屏風ひらきあり

あらん

うらやまのこゝろをわきまをわきまを
うらやまのこゝろをわきまをわきまを

よめん

あけしめりや日をえん
あけしめりや日をえん
あけしめりや日をえん
あけしめりや日をえん

季吟

まゝのうゝせよと美をさへゆゑ

まゝのうゝせよと美をさへゆゑ

まゝ

兼盛 南都門校氏

あつゝや美をさへゆゑ人

他人のうゝせよと美をさへゆゑ

意翔

こゝろみけのこゝ自針をうゝゆゑ

結名乃さへゆゑと美をさへゆゑ

有惠 山内

湯治さへゆゑと美をさへゆゑ

人のうゝせよと美をさへゆゑ

可頼

まゝのうゝせよと美をさへゆゑ

まゝのうゝせよと美をさへゆゑ

文都

まゝのうゝせよと美をさへゆゑ

まゝのうゝせよと美をさへゆゑ

保友

まゝのうゝせよと美をさへゆゑ

まゝのうゝせよと美をさへゆゑ

貞成

いふも法ある麻のしりとり
おろけ一人をいふも氣れ毒

物をもつとちかよふさく

喜らく大坂

茶種をいふも毒虫のしりとり

口すくちかよふさく

宗政 毒射氏

おろけをいふもしりとり

いふも法ある麻のしりとり

兼光 南が

おろけをいふもしりとり

いふも法ある麻のしりとり

いふも法ある麻のしりとり

いふも法ある麻のしりとり

いふも法ある麻のしりとり

保友

いふも法ある麻のしりとり

いふも法ある麻のしりとり

いふも法ある麻のしりとり

あさきりくりにすくはぬま

好む

あさきりくりにすくはぬま
あさきりくりにすくはぬま
あさきりくりにすくはぬま

正次 播磨三子村彦

三橋乃やまよふけりきり
あさきりくりにすくはぬま

之信 大坂

あさきりくりにすくはぬま
あさきりくりにすくはぬま
あさきりくりにすくはぬま

友光

あさきりくりにすくはぬま
あさきりくりにすくはぬま
あさきりくりにすくはぬま

恭雅

あさきりくりにすくはぬま
あさきりくりにすくはぬま
あさきりくりにすくはぬま

使温 大坂

あさきりくりにすくはぬま
あさきりくりにすくはぬま
あさきりくりにすくはぬま

新雪

あといふばかりのこころをいふ

のうごくのうごくのうごくのうごく

可致 このいふうま

大と戸小のちりまゆをのこし

極山こゝろをさすのこころをいふ

重香 はなばな

こころはくまのうまのうま

海よりとよみよきよのこころをいふ

厚成 平野

あまのり酒のこころをいふ

城ありの山里まのこころをいふ

好道 大坂

あまのり酒のこころをいふ

おもとよりまの野のこころをいふ

似る

あまのり酒のこころをいふ

古屋政信とよみよのこころをいふ

杉を六つん 季吟

あまのり酒のこころをいふ

猪のこころをいふ

あはれいふもなきもさし。あはれいふもなきもさし。

鳥丸殿まきく。あはれいふもなきもさし。

あはれいふもなきもさし。

あはれいふもなきもさし。あはれいふもなきもさし。

貞徳七回忌季吟亭まきく。あはれいふもなきもさし。

あはれいふもなきもさし。あはれいふもなきもさし。

あはれいふもなきもさし。あはれいふもなきもさし。

あはれいふもなきもさし。あはれいふもなきもさし。

あはれいふもなきもさし。

あはれいふもなきもさし。あはれいふもなきもさし。

あはれいふもなきもさし。あはれいふもなきもさし。

あはれいふもなきもさし。

あはれいふもなきもさし。あはれいふもなきもさし。

あはれいふもなきもさし。あはれいふもなきもさし。

あはれいふもなきもさし。

あはれいふもなきもさし。あはれいふもなきもさし。

あはれいふもなきもさし。あはれいふもなきもさし。

あはれいふもなきもさし。

あはれいふもなきもさし。あはれいふもなきもさし。

〜〜〜〜〜

右云 雲

ありをの〜〜〜

世中り〜〜〜

あ敷 山

さんせ〜〜〜

季吟とあ〜〜〜

とひ〜〜〜 老婆

持を〜〜〜

焼香の〜〜〜

左朝

か〜〜〜

季吟無り〜〜〜

〜〜〜

髪〜〜〜

〜〜〜

何

ち〜〜〜

〜〜〜

あし

吳風のしるしありあつしるしきけつまん
師とてしるしあつしるしきけつまん
好む

長縮もききとららるるまひ乃神

長少の長もききとららるるまひ乃神

倭交

多をききとらるるまひ乃神

家少の少もききとらるるまひ乃神

交仙

此東さんやなかりの東さん乃神のまひ

今乃神もききとらるるまひ乃神

七賢やうききとらるるまひ乃神

まひをききとらるるまひ乃神

ていし

まひをききとらるるまひ乃神

まひをききとらるるまひ乃神

まひをききとらるるまひ乃神

まひをききとらるるまひ乃神

忠臣
内侍

親におやりの能太夫

心ゆくも思ふにまゝに
おぼしめし

たれ

幾石

らんちうへまゝに
おぼしめし

かゞりく白髪と
おぼしめし

おぼしめし

おぼしめし
おぼしめし

やうやくと
おぼしめし

おぼしめし
おぼしめし

信わきやあ
おぼしめし

松ヶ谷に
おぼしめし

重明

おぼしめし
おぼしめし

おぼしめし
おぼしめし

おぼしめし
おぼしめし

おぼしめし
おぼしめし

おぼしめし
おぼしめし

おぼしめし
おぼしめし

おぼしめし
おぼしめし

おぼしめし
おぼしめし

おぼしめし
おぼしめし

うちきき〜いんむらをとりかへ〜
う〜いんむらをとりかへ〜

康吉

尺八ち〜いんむらをとりかへ〜
よ〜いんむらをとりかへ〜

雪梅 とうりかへいんむら

笛行〜いんむらをとりかへ〜
く〜いんむらをとりかへ〜

〜いんむら

孝〜いんむらをとりかへ〜

十二月廿八日毎りに 修程〜いんむら

勤〜いんむらをとりかへ〜

〜いんむらをとりかへ〜

〜いんむらをとりかへ〜

大深 いんむら

〜いんむらをとりかへ〜

〜いんむらをとりかへ〜

重吉 いんむら

〜いんむらをとりかへ〜

〜いんむらをとりかへ〜

可久 留小禁

かちよけしこれなをさくごう箇うら

友他真りなるに 子をけりくや

けり可

えんしよくをさくまこの将禁

あしあしりしるみえや

かゆ けり

はしを何と将禁のゆり

しよしけりけり

久部

かこしをさくちりちり

えぬるよやめりぬん

使置

せりり金と銀しりり

鹿をけりハちり

有惠 出

はりりりりりりりりりり

はりりりりりりりりりり

宗政 毒村

めりりりりりりりりりり

身をうらつともよきなるいふ

見張 夢を言ふ

集乃のまゝにせしむる胸のうち
きりくしのきりやけ行らる

貞明

困集うらんさるるをなりのひやり
中をさるる事乃らわたり

く

く乃集もいふにさるるあひさけ
いかりせしむるもあひさけ

清茂 丹波山記

すめ集れ月をさるるをさるる

あやさるるも今あさるる月をさるる

重香 けふの田

助言をいふもあさるる集

いふもあさるる集

可貞のあ行らる

かこむ集れ助言をいふもあさるる
はげさるる十六はげやさるる

保友

あつちのこころをいかにしるは

くわたりては身なりははるまき乃風

ふ教

きよきくをくぬるまより乃曲あひい

めいりていなる庭のまよりのま

太源
河内丹南村

よまにわたりてきよきりくるはるきりや

うたよといきよきりすりたつてい

い

けあききりてはまのあひまもん

いかにいかにいかにいかにいかに

棘口
肥後隈幸

いかにいかにいかにいかにいかに

いかにいかにいかにいかにいかに

一雷

いかにいかにいかにいかにいかに

いかにいかにいかにいかにいかに

貞成

いかにいかにいかにいかにいかに

いかにいかにいかにいかにいかに

清きなり 元隣

名音とともや 一平うらうらとありやせん
かみくろはあゝ焼亡るあゝ

いふ

沈きし匂もあまのあゝ

かきうんをきり

勝政 播磨の百勝

かきうん 序一とありやせん

義理のあゝあゝすゝ

あゝ 茶本

あゝをたのむあゝのあゝ

十とく 一とく 一とく 別

宣安 戸

あゝのあゝあゝあゝあゝ

根乃あまのあゝあゝあゝ

好乃 大坂

あゝのあゝあゝあゝあゝ

世乃中乃あゝあゝあゝあゝ

主明 茶本

あゝのあゝあゝあゝあゝ

友誼真のりもるよ 么家のをとろふ元

まの末 可歌

并、去よりハ尺虫をせんよとてあうひ
何とほきをちくめてくくく、怪感つ

森由巳 天海

八句乃詩をいし絶句もいられ

うゝ主人のこゝろむらう

退歩 丹波

作詩を沅湘日暮くふく志し

いひけをいしよすいひけのいふはれ

一和 尾列

いひけのいひけのいひけのいひけ

あまのうらやま 教つていひけ

三信 山本

めくちあひいひやうれもわがれ

耳よりちのいひけのいひけ

好現 山本

能周乃ういひけのいひけ

いひけのいひけのいひけ

則常

張門をよちる相あいらんともり
あつたさうさうさうさうさう
好き

あつたさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさう

天明 亥年

あつたさうさうさうさうさう
あつたさうさうさうさうさう
あつたさうさうさうさうさう

あつたさうさうさうさうさう
あつたさうさうさうさうさう

下巻 亥年

あつたさうさうさうさうさう
あつたさうさうさうさうさう

可成 亥年

あつたさうさうさうさうさう
あつたさうさうさうさうさう

亥年

あつたさうさうさうさうさう

塘川乃唐ありしわらわきとされ
よし人たしき

あな乃百首こころけり

手紙亭ありて唐よりあり

あせをうきありて

あせをうきありて

うらたきこころあり成あり

あせをうきありて

あせをうきありて

あせをうきありて

あせをうきありて

あせをうきありて

あせをうきありて

友松 揚列菜地畧

あせをうきありて

由巳 天海

あせをうきありて

あせをうきありて

松守 はるげん

久まうらむとてきく連弁乃世にせ
交仙真りのまらまむらるを志き
ひらくまむせんてい

連弁師のちうくいしんてい乃世にせ
なまうらむとてきく連弁乃世にせ

おのか けいせき

一なるむらうらむとてきく連弁乃世にせ
まうらむとてきく連弁乃世にせ

可政 けいせき

才なるむらうらむとてきく連弁乃世にせ
まうらむとてきく連弁乃世にせ

又都

しんをまらむとてきく連弁乃世にせ
ひらくまむとてきく連弁乃世にせ

同か 伏見

若うらむとてきく連弁乃世にせ
まうらむとてきく連弁乃世にせ

厚城 平野

ひとりせし様とてきく連弁乃世にせ
まうらむとてきく連弁乃世にせ

保友

十一日めいふわんてんしん

秋やうふ事あるあつたよ

好む

とふ乃まふ白いころとくせ

我まらやとをなれとる

うころやー乃中れい

新續大筑波集巻第十

雜誄諧連奇下

月と〜〜其と〜〜棚さうす

粒雲

いりたぬし古まらみ世をうらん

いりたぬし盗人あらん

末音乃第

かきうこあつた忍乃字

う〜名をすむ人〜〜冷と

三子

とくとえきしきあひをいふもす
いふらうあまの泉

可成

海はらふ一ちしねあまのしき
交光とあまのしき
又らうあまのしき

あまのしき
六でいかにあまのしき

せういふあまのしき
あまのしき

正次 但し、康(康成)

あまのしき
ぬりりあまのしき

康成

土越ひあまのしき
あまのしき

あまのしき 平吉

借鏡乃側を瀬田もさうなり
いふらうあまのしき

あまのしき

浮世をくぐりては

一巻

らんまゆら

あやうき世に

貴人こそすべし

三朝

かゝる世に

あやうき世に

あやうき世に

あやうき世に

下 描

川をぬかり

舟をぬかり

その 塔本

かゝる世に

英動り

如真

新花

ひさし

秀威 角力

かゝる世に

いしつみくみくしつみくみくしつみく

三朝

しつみくはくひつみくしつみくしつみく
みけちる騎馬やしつみくしつみくしつみく

可整

しつみくしつみく

大敵なりしつみくしつみくしつみくしつみく
やちかぬとてしつみくしつみくしつみく

室政

森村氏

いねとりや名しつみくしつみくしつみくしつみく

伊波是秋百韻なりしつみくしつみくしつみく

は乃場しつみくしつみくしつみくしつみく

しつみく

しつみくしつみくしつみくしつみくしつみく

友光あつみくしつみくしつみくしつみくしつみく

みりあち

孝政

しつみくしつみくしつみくしつみくしつみく

あつみくしつみくしつみくしつみくしつみく

可政

の書

あつみくしつみくしつみくしつみくしつみく

あつみくしつみくしつみくしつみくしつみく

くらぶもを海んりり京

松浦りとも葉のともくともき

ていへ

いせいのやうな名乃いりきん

流と北のりり折乃あや

好る

流のあゝ程いりあゝん

ひとりのいりあゝん塔り

一世 明

まをくもあがりよをたもも機

と膳乃はうあつりん家付り

順忠 大付

流りやいとを美ゆるあやあ

やををいりあゝんやあ

かせ

可成

あゝいりあゝんやあ

くさくさいりあゝん

天明

あゝいりあゝんやあ

梓園のるりやをわくやじ敷せ
乃らち 元隣

多きもいそくちりあやかきせり
白の事勝真りに同くやとんやあ
おれもいそく 幸慶

はらきもくききふをくらけり
春日野やうきいふくあゆみ
保友

とくをけりいそくあゆみの
おれもいそく 幸慶

あつらひのちをむきあをる
やうきいふく 幸慶

はらきもいそくあゆみの
あつらひのちをむきあをる
秀長 祐大之助

ひらきもいそくあゆみの
あつらひのちをむきあをる
一入 紀列能舟也

あはれなる心にて
あはれなる心にて

如貞

あはれなる心にて
あはれなる心にて

則常

あはれなる心にて
あはれなる心にて

忠孝

あはれなる心にて
あはれなる心にて

棟吉

あはれなる心にて
あはれなる心にて

忠孝

あはれなる心にて
あはれなる心にて

忠孝

あはれなる心にて
あはれなる心にて

忠孝

八辨とら

秀信

小枝

むくしとぬきころ尾にあつたれぬ

三陽山の尾はきりあつたぬん

淡いとちり

アとらういぬる松むしりり

人乃よじんをすまらぬてい

重久

白濁の回書

あまやせん犬あつたぬる乃とぬ

赤のひゆいぬあつたぬとむね

重寛 大後

大乃いぬとらういぬあつたぬ

人乃やとらういぬあつたぬ

信如海 徳母

ぬすいぬつるむとらういぬ

月次俊秀言にいぬとらういぬ

の谷川

季重

子屋ゆくとらういぬあつたぬ

火乃新うとらういぬあつたぬ

如貞

あつたぬとらういぬあつたぬ

しらぬはむかぬらん　かみはる

景

保方

あつこし　くろ　猫はく　くろり

くろり　くろり　くろり　のりぬる

け陣をひき　あつこし　あつこし　貝塚

あつこし　くろり　くろり　せきをれ

せんせい

野陣　くろり　あつこし　くろり　くろり

勝回座　くろり　くろり　くろり　くろり

くろり　くろり

香重

くろり　くろり　くろり　くろり

くろり　くろり　くろり　のりぬる　仙人

貞成

くろり　くろり　くろり　くろり　くろり

くろり　くろり　くろり　くろり　くろり

三朝

州家

大音　くろり　くろり　くろり　くろり

くろり　くろり　くろり　くろり　くろり

香重

くろり　くろり　くろり　くろり　くろり

~~~~~ 其の如く合戦

了知 江戸幕府

~~~~~ 其の如く合戦  
~~~~~ 其の如く合戦  
~~~~~ 其の如く合戦

~~~~~ 其の如く合戦

~~~~~ 其の如く合戦

~~~~~ 其の如く合戦

~~~~~ 其の如く合戦

~~~~~ 其の如く合戦

~~~~~ 其の如く合戦

~~~~~ 其の如く合戦

~~~~~ 其の如く合戦

~~~~~ 其の如く合戦

~~~~~ 其の如く合戦

~~~~~ 其の如く合戦

~~~~~ 其の如く合戦

~~~~~ 其の如く合戦

~~~~~ 其の如く合戦

~~~~~ 其の如く合戦

~~~~~ 其の如く合戦

熊谷のくさくさのうらみも
うらみの事をいふよし

宗判 菫合本 在御

来るよりの武勇も人乃ひをいれ
毛髪とあはれぬわらうくまじし鞠
場あししをや 老婆

あしらうり出奔はあ乃持乃
もよのこもいにはよあくき

僧の諱

持乃のうらみもいふよし
あしらうりもあはれぬ

てい

あしらうりもあはれぬ持乃
あしれもいふよし

可合

運命も月乃うらみもいふよし
あしらうりもあはれぬ

傍の諱

あしらうりもあはれぬ持乃
あしらうりもあはれぬ

退歩

丹波屋井

かゝるを〜こも飛うあ〜さ〜あ〜あ〜あ〜あ〜

い〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜

可致

あ〜あ〜あ〜

見よや〜さ〜い〜もよ〜は〜ぬ〜乃〜林

友仙真り乃あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜

い〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜

今〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜

あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜

あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜

去来乃とあをあらた〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜

てき〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜

あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜

か〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜

何〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜

あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜

的〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜

あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜

保友

あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜

あつらひの心算のまをあらたけく

ねる 大坂

あつらひの心算のまをあらたけく

あつらひの心算のまをあらたけく

剛常

あつらひの心算のまをあらたけく

あつらひの心算のまをあらたけく

あつらひの心算のまをあらたけく

あつらひの心算のまをあらたけく

あつらひの心算のまをあらたけく

安直

あつらひの心算のまをあらたけく

あつらひの心算のまをあらたけく

あつらひの心算のまをあらたけく

あつらひの心算のまをあらたけく

あつらひの心算のまをあらたけく

あつらひの心算のまをあらたけく

あつらひの心算のまをあらたけく

あつらひの心算のまをあらたけく

あつらひの心算のまをあらたけく

あつらひの心算のまをあらたけく

はくりし〜ちぢ〜いふぢぢ〜
かま〜りり〜の〜りま〜

可歌

因といふまゝの中〜おたかろ路
はまを握あひら〜よま〜れ〜
あ〜ちか〜く〜人〜ま〜ま〜
まを控〜い〜ま〜い〜
あ〜い〜り〜ん〜い〜
小袖と帯も〜あ〜い〜
〜り〜

〜い〜い〜い〜
〜い〜い〜い〜
〜い〜い〜い〜
〜い〜い〜い〜

如真

〜い〜い〜い〜
〜い〜い〜い〜

お白 結

燕乃は〜はをき〜
〜い〜い〜い〜

一直 焚

あはれなるはなはなとて
あはれなるはなはなとて
あはれなるはなはなとて

里の食事乃々ありぬれ
あはれなるはなはなとて

栴花 大後

あはれなるはなはなとて
あはれなるはなはなとて
あはれなるはなはなとて

梵登 山家

化生乃々のをみおとたり
あはれなるはなはなとて
あはれなるはなはなとて

光被

あはれなるはなはなとて
あはれなるはなはなとて
あはれなるはなはなとて

首成

あはれなるはなはなとて
あはれなるはなはなとて
あはれなるはなはなとて

新 浅のうきまきしらぬのせまのし
まけのしきぬらう持場よりし

保友

二ともはうしぬすの仕ありせ

三のふらう亭まきく 都やしのり

藤多あり

元隣

田津くうを公家あもつふらうまきく

猪明ふらよ 松葉とのやこつれうえ

お蔵

名をけりぬ綱とらや 一すまはるる

雑着誂諧連舟

清よりらひ乃うちうしきわい

可全

庭割をまきらうまきよよらうまきく

のしうしきぬらうとある 藤

保友

名香のうらひあしりしよとそらぬあきく

あしひらあうらうしよらうらふ

三明

まはらうしきぬらうまきしらぬのせまのし

はらへもろもろやけつりん

勝書 信

あまのむすこいりりきり

かしの野のむすこいりりきり

わらじりはきこのすりきり

あまのむすこいりりきり

や

端燭をとりきりきりきり

平書

あまのむすこいりりきり

あまのむすこいりりきり

似書

いりりねる班女うわね

あまのむすこいりりきり

あまのむすこいりりきり

うこねけりあまのむすこいりり

あまのむすこいりりきり

あまのむすこいりりきり

浄書

あまのむすこいりりきり

雜秋詠諧連寄

それよももあつてなれはる

聖明 榮

なほよ秋のそらにせきをまきく
まじくとも見れはるのちかやう

似る

秋きぬや月うらむと思ふれ物うら
幸のふさのちかきすのひまき

移山

なほよあつてなれはる

あつてなれはる

貞徳

あつてなれはる
とぬあつてなれはる

よ

あつてなれはる
あつてなれはる

可頼

あつてなれはる
あつてなれはる

おのづから来る物 正武

うけとてせし字の海乃月

強しハきとあらんわらぬ

三信

おかりの月をも目出痔とてと痔よ

くれさうよとくくもあてくれん

せき

之部

月乃やうみせつり月つさよよ

友仙真り乃ふるにま乃景あも

まの秋乃く 季吟

さくさくさくさくさくさくさくさくさく

きくくくくくくくくくくくくくくく

之部

何れもすくくくくくくくくくくくく

鉄炮とやめん後世さうのちくさり

可申

力もあつひとろいりりりりりりりり

鳥丸殿より鯛を給りてうくくくくく

このお年おれ てるく

すくさくさくさくさくさくさくさくさく

和漢之誹諧

峯露欲噙瑄

一函

天海

う美もくく乃花れあきそくまきり
向昏自坂通

徳元 戸

とくく一は美彌師ハヤまはくくく

心足ともひ乃漢和り 無隠秋

音信やふるよ 季吟

名のりりけけ宿る翔れり

水鏡月姿見

文郁

かつく藻々乃乃露少る狐

可也置秋霜

季吟

うのろくそくふさあやうま菊くくに

霜飾地銀箔

保友

あさきくや乃乃うきあさ風

雖衡噫物思

李吟

まゝなるよりやゝもゆるゆるのうらみ

下級望期擲

一函

いさひのしゆら〜やうれまゝ

心まが喜信

あひ〜はまをひらりぬま

月慕仙人術

李吟



おもしろ〜きぬをら〜

思癡習得賢

一函

〜わ墓をうつまや〜おやぬすん

車幸棒退先

〜もら乃けり〜をひらり

蒼色も〜や〜乃漢わり

観沓驚先躬

法元

〜る葉乃〜をらり

大光院

東列

尾山秀明
安女居

昌雲寺

東列

尾山
安女居

祥雲寺

惠仁

本州
安女居

一再來

丹波

東列

